

内なる平和を求めて（2/4）： 命の容

:

明:

第二部では、生活の例や逸を用いて、人生には制御することの出来る性の障壁と、そうすることの出来ない性の障壁が存在し、者が全能なる神によるものであることを知る重要性についていきます。

目: [事イスマによる利益真のよろこびと内面のやすらぎ](#)

より: ビラル フィリップス博士 (アブ ウスマン氏 音の から 写)

日 5 Jan 2010

集日 25 Jan 2010

私たちは多くの や障壁を抱えており、それらはあたかも病 のようです。もしもそれらの一つ一つに取り 込んだとしても、して わりが来ないような感もあります。私たちはそれらを明 にし、一般的な区分に分 し、一つずつではなく、まとめて取り むべきです。

そうするためにはまず、私たちにとって制御出来ない性の障壁を削除しなければなりません。何が制御可能な障壁で、何が不可能な障壁かを めるのです。私たちは制御不能なものを障壁であると なしがちですが、 には なるのです。それらは神が私たちの人生において 命付けたものであり、私たちはそれらを障壁であると って解 してしまいがちです。

例えばあなたが、白人が好まれる世界において 人として生まれて来たとしましょう。または裕福な人が好まれる社会において 乏人として、あるいは身の低い人か、身体の不自由な人として生まれたとします。

これらの全ては私たちにとって制御の出来ないもの、つまりコントロールの 外です。私たちはどの家族に生まれるか べません。また私たちは、私たちの魂がどの体に吹き まれるのかを ぶことなどしませんでした。つまり 肢はなかったのです。 ってこういった

解出来ないのです。

例えば 神 者になった人物に、素 な叔母がいたとします。彼女は善良な人物で からも されましたが、ある日彼女が道路を渡ろうとした 、突然自 にかれ亡くなってしまいました。なぜ彼女に限ってこういうことが起きなければならないのでしょうか？ どんなに んでも、それは 明がつかないのです。または（ 神 者になった）ある人物の子供が亡くなり、なぜ自分の子にこういったことが起きるのかと み きましたが、全く 明することが出来ません。その 果、神など存在するはずもないと思うようになるのです。

Footnotes:

[1]

その国王は抑 者で、良い船を 制的に没 することで知られていました。そして船を所有する人々は しく、その船が生 得る唯一の手段だったのです。そこでヒドルはその船が取り上げられないようにするため、欠 のあるものであるよう けたかったのです。

[2]

この は 写者により追加されています。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/634>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。